

## 代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社  
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

介護保険改定は6年ごとに大きな制度改定、3年ごとに報酬改定が行われます。この次は平成30年の改定。

検討される大雑把な内容として軽度者（要支援1,2・要介護1,2）向け居宅サービスは地域支援事業への移行②軽度者の生活援助、福祉用具、住宅改修は原則自費③2割負担の対象者の拡大。

少子高齢化による社会保障費の抑制が狙いとされており、日本の高度成長の時代に貢献されてきた高齢者の方々に対してどうか温情のある改定であって欲しいと願うばかりです。

## サンライズの物語

独学で英語を勉強し、英語に触れながら生きてこられたご利用者。一人ひとりの生活歴を活かすこととは何か、考えさせられる物語。



その方と出会ったのはご家族様が本人の認知機能低下に気が付き心療内科で「海馬が萎縮しておりアルツハイマー型認知症」と診断された時でした。

ご本人様は独居で弟さんが一人居るだけでしたが、その方の口癖が「一人で居るのは淋しくて嫌なの」でした。

独学で英語を勉強して通訳をして海外へも何度も行っていた素敵な方でした。

精神通院の通所介護、介護保険の通所介護、訪問介護と利用していましたが、周辺症状が進み近所を毎日徘徊しておりました。

私達介護職は「何故徘徊するのか」と不思議に思いましたが徘徊をする理由は毎回ありました。

目的があつての徘徊・・・社員総手で探し回り、やっと見つけ「見つけた！」と言うと「見つかった！」と返すチャーミングな方でした。

その方の思いに寄り添いたいと訪問診療の医師や各サービス事業所の方々にも分かる範囲の英語で話すように伝えたものでした。弟さんが外国の友人からの手紙を持参すると英語で読み始め説明もしてくれたり・・・弊社の電話番号を呪文のようにいつも言い続けており、日に何度も何度も連絡が来たことが懐かしく思い出されます。

そんな魅力のある方でしたが認知症状が進行して在宅で水を飲む事も困難となり特養へ入所されました。

認知症との関わりかたの難しさ、その方の生活歴を生かし、その方がもっとも輝いていた時代を反映できなかったものかと・・・今も自分に問いかけております。

# 介護に役立つ書籍紹介

## 「思わず解きたくなる脳のための毎日テスト」

自由国民社 制作：デイサービスたまや

愛知県名古屋市のデイサービス、「デイサービスたまや」で人気の脳トレ問題をまとめた1冊。文字の並び替えや、穴あきしりとりなど、大人でも頭をひねるけれど、解けると一気に気分が良くなる問題が満載です。

実際に、以前に比べて会話の内容を理解する力がついた、アルツハイマーと診断された利用者の介護度が3年間変わらなくなったなどの効果について記載もありました。

分からない問題については協力して解くなど、コミュニケーションツールとしても優秀です。



### NEWS 今月のニュース

#### デイサービスで物作り「今できること」が、社会につながる。

デイサービス（通所介護）に通う高齢者の老練な技術で、洗練されたインテリア雑貨や小物などを生み出す活動がある。名付けて「Roren（ローレン）」。作り手は要介護状態にある75歳以上の人たちだが、バーや一戸建ての内装に使われるなど、若い世代にも好評だ。

福岡市南区のデイサービス「シティケア長住」（定員35人）。体操をする人の傍らで、若林恭人さん（100）は流木に電動ドリルで穴を開け、一輪挿しを作る。エプロン姿の中島勇さん（79）は革細工に励む。

「Roren」は2015年2

月、作業療法士の香月真さん（35）が始めた。できないことが増えていく高齢者の残った能力を生かして社会参加できる方法を模索した。（中略）

これまでに、福岡市のインテリアショップなどで展示会を5回開き作品は完売。購入者からは「心を込めて作られている様子が浮かびます」「丁寧な仕上がりにほれ込みました」などの感想が寄せられた。収益は材料費や地域への寄付に充てている。

作り手の1人暮らしの女性（85）は5年前に福岡市に引っ越してきて、近所に知り合いも少ない。要介護1で「何もすることがなく苦しかった」が、織物を始めて生きがいがあった。作品が売れ「8

0を過ぎても人の役に立ててうれしい」と笑う。革小物を作る中島さんも「一番楽しい時間」と、自ら革を買いに出掛け、自宅でも作業するようになった。

香月さんは「社会とつながる機会が持てれば、できることが減っていく高齢者も有能感を保て、生活の質は上がる」と活動の意義を感じている。



<西日本新聞  
2017年4月13日（木）>



#### 今月の名言

恐れを抱いた心では、  
何と小さいことしかできないことでしょう。

フローレンス・ナイチンゲール

イギリスの看護師、フローレンス・ナイチンゲールの言葉です。戦地の中、“白衣の天使”と呼ばれるほどの献身をした彼女の信念の力強さに勇気を貰える一言です。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>